

# 2016年度(平成29年3月期) 第2四半期決算説明資料

2016年11月1日

株式会社 IHI



<b>1. 2016年度第2四半期 連結決算</b>	
連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書).....	4
報告セグメント別内訳.....	5
営業外損益及び特別損益.....	8
連結貸借対照表.....	9
連結キャッシュ・フロー計算書.....	10
補足資料.....	11
<b>2. 2016年度 連結業績見通し</b>	
通期業績見通し.....	13
報告セグメント別内訳.....	14
<b>3. 報告セグメント別の概況</b>	
資源・エネルギー・環境.....	18
社会基盤・海洋.....	20
産業システム・汎用機械.....	22
航空・宇宙・防衛.....	24
<b>&lt;参考資料&gt;</b> .....	26

※ 各項目の金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

# 1. 2016年度第2四半期 連結決算

# 1. 2016年度第2四半期 連結決算 連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書)

2016年度2Q 売上平均レート(米ドル) 105.25円

2016年7月29日公表 業績予想

(億円)

	'15年度2Q	'16年度2Q	増 減
受 注 高	7,077	6,402	▲ 674
売 上 高	6,882	7,000 6,917	▲ 83 35
営 業 利 益	2	230 119	▲ 111 116
経 常 利 益	▲ 40	160 50	▲ 110 91
税金等調整前 四半期純利益	▲ 40	50	91
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲ 39	90 ▲ 52	▲ 142 ▲ 13

当連結会計年度から、一部の海外連結子会社の決算日を12月31日から3月31日に変更しており、当第2四半期連結累計期間においては、該当する海外連結子会社の会計期間が9か月となっています。この影響により、売上高で252億円、営業利益で27億円がそれぞれ増加しています。

# 1. 2016年度第2四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(受注高・受注残高)

(億円)

	受注高			受注残高		
	'15年度2Q	'16年度2Q	増減	'15年度末	'16年度2Q	増減
資源・エネルギー・環境	2,217	1,763	▲ 454	8,434	7,667	▲ 766
社会基盤・海洋	747	736	▲ 11	1,943	2,000	57
産業システム・汎用機械	2,203	2,114	▲ 88	1,380	1,460	79
航空・宇宙・防衛	1,822	1,671	▲ 150	5,410	4,755	▲ 655
報告セグメント計	6,991	6,285	▲ 705	17,168	15,884	▲ 1,284
その他	326	342	15	247	244	▲ 2
調整額	▲ 241	▲ 225	15	-	-	-
合計	7,077	6,402	▲ 674	17,416	16,128	▲ 1,287

海外受注高・受注残高	3,224	2,997	▲ 226	7,579	5,964	▲ 1,614
海外受注高・受注残高比率	46%	47%	1%	44%	37%	▲ 7%

# 1. 2016年度第2四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益)

(億円)

	売上高			営業利益		
	'15年度2Q	'16年度2Q	増減	'15年度2Q	'16年度2Q	増減
資源・エネルギー・環境	2,099	2,085	▲ 13	52	▲ 68	▲ 120
社会基盤・海洋	664	666	1	▲ 345	▲ 199	146
産業システム・汎用機械	1,902	2,029	126	39	79	39
航空・宇宙・防衛	2,165	2,059	▲ 106	310	315	4
報告セグメント計	6,833	6,841	7	56	126	70
その他	257	322	64	▲ 1	4	5
調整額	▲ 207	▲ 245	▲ 37	▲ 52	▲ 11	40
合計	6,882	6,917	35	2	119	116

一部の海外連結子会社の決算日を変更した影響については、売上高は「資源・エネルギー・環境」で109億円、「社会基盤・海洋」で3億円、「産業システム・汎用機械」で117億円増加しています。  
営業利益では「資源・エネルギー・環境」で6億円、「産業システム・汎用機械」で20億円がそれぞれ増加しています。

# 1. 2016年度第2四半期 連結決算

## 報告セグメント別内訳(営業利益の前年同期比増減要因)

(億円)

	売上高の増減	工事採算の変動	為替の変動	販管費の変動	合計
資源・エネルギー・環境	▲ 24	▲ 65	▲ 17	▲ 14	▲ 120
社会基盤・海洋	3	146	▲ 7	4	146
産業システム・汎用機械	34	34	▲ 7	▲ 22	39
航空・宇宙・防衛	17	7	▲ 54	34	4
報告セグメント計	30	122	▲ 85	2	70
その他	4	▲ 2		3	5
調整額		35		5	40
合計	34	155	▲ 85	10	116

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合があります。

# 1. 2016年度第2四半期 連結決算 営業外損益及び特別損益

(億円)

	'15年度2Q	'16年度2Q	増 減
金融収支	▲ 8	▲ 3	5
持分法による投資損益	12	▲ 4	▲ 16
為替差損益	▲ 20	▲ 64	▲ 44
その他	▲ 26	3	29
営業外損益	▲ 42	▲ 68	▲ 25
特別損益	—	—	—

期末日レートの変動(米ドル) '15年度2Q ▲0.21円(期首120.17円→2Q末119.96円)  
'16年度2Q ▲11.56円(期首112.68円→2Q末101.12円)



# 1. 2016年度第2四半期 連結決算 連結貸借対照表

(億円)

	'15年度末	'16年度2Q末	増減
<b>資産合計</b>	<b>17,150</b>	<b>15,937</b>	<b>▲ 1,212</b>
(うち 売上債権)	(4,448)	(3,372)	(▲ 1,075)
(うち 棚卸資産)	(4,103)	(4,524)	(421)
<b>負債合計</b>	<b>13,816</b>	<b>12,817</b>	<b>▲ 999</b>
(うち 仕入債務)	(2,974)	(2,727)	(▲ 247)
(うち 前受金)	(1,803)	(1,977)	(173)
(うち 有利子負債残高)	(3,745)	(3,424)	(▲ 321)
<b>純資産合計</b>	<b>3,333</b>	<b>3,120</b>	<b>▲ 212</b>
株主資本	3,058	3,003	▲ 54
その他の包括利益累計額	124	▲ 23	▲ 148
<b>負債・純資産合計</b>	<b>17,150</b>	<b>15,937</b>	<b>▲ 1,212</b>
<b>D/Eレシオ(※)</b>	<b>1.12倍</b>	<b>1.10倍</b>	<b>▲ 0.02倍</b>
<b>自己資本比率</b>	<b>18.6%</b>	<b>18.7%</b>	<b>0.1%</b>

有利子負債残高には、リース債務残高( '15年度末:179億円, '16年度2Q末:166億円)を含んでいます。

(※) D/Eレシオ=有利子負債/純資産

# 1. 2016年度第2四半期 連結決算 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	'15年度2Q	'16年度2Q	増 減
営業キャッシュ・フロー	▲ 240	423	663
投資キャッシュ・フロー	▲ 283	▲ 304	▲ 20
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 523	118	642
財務キャッシュ・フロー	460	▲ 303	▲ 764

# 1. 2016年度第2四半期 連結決算 補足資料

## (1) 研究開発費・設備投資額・減価償却費 (億円)

	'15年度2Q	'16年度2Q
研究開発費	184	146
設備投資額	212	239
減価償却費	214	224

設備投資額、減価償却費は、有形固定資産に係る金額を示しています。

## (2) 海外売上高 (億円)

	'15年度2Q	'16年度2Q
アジア	915	950
中国	412	372
北米	1,668	1,545
中南米	124	143
欧州	722	623
その他	154	207
合計	3,997	3,842
海外売上高比率	58%	56%

## 2. 2016年度 連結業績見通し

## 2. 2016年度 連結業績見通し 通期業績見通し

前提為替レート 米ドル **100円** (前回見通し公表時 **105円**)  
 (第3四半期以降) ユーロ **110円** (前回見通し公表時 **115円**) (億円)

	前回見通し ( '16年度通期 ) A	今回見通し ( '16年度通期 ) B	前期実績 ( '15年度通期 )	増 減 B-A
受 注 高	14,500	14,000	16,053	▲ 500
売 上 高	15,200	15,000	15,393	▲ 200
営 業 利 益	580	380	220	▲ 200
経 常 利 益	440	180	97	▲ 260
親会社株主に帰属する 当期純利益	220	0	15	▲ 220

前回見通しは、2016年7月29日公表の業績予想数値です。

今回見通しは、2016年10月24日に公表した数値から変更ありません。

(参考) 為替感応度 (為替相場の1円の変動により、営業利益に与える影響額)

米ドル 5億円 ユーロ 0億円

前提為替レートの変更に加え、当四半期でのF-LNG(フローティングLNG貯蔵設備、海洋構造物)事業の3プロジェクトなどでの採算悪化や、税金費用の増加の影響により、売上高は減収となり、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は減益となる見通しです。

## 2. 2016年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(受注高通期見通し)

(億円)

	前回見通し ('16年度通期)	今回見通し ('16年度通期)	増 減
資源・エネルギー・環境	4,700	4,300	▲ 400
社会基盤・海洋	1,200	1,200	0
産業システム・汎用機械	4,300	4,300	0
航空・宇宙・防衛	4,200	4,100	▲ 100
報告セグメント計	14,400	13,900	▲ 500
そ の 他	700	700	0
調 整 額	▲ 600	▲ 600	0
合 計	14,500	14,000	▲ 500

前回見通しは、2016年7月29日公表の業績予想数値です。  
今回見通しは、2016年10月24日に公表した数値から変更ありません。

## 2. 2016年度 連結業績見通し

### 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益通期見通し)

(億円)

	前回見通し ('16年度通期)		今回見通し ('16年度通期)		増 減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
資源・エネルギー・環境	4,800	140	4,700	90	▲ 100	▲ 50
社会基盤・海洋	1,600	▲ 10	1,600	▲ 150	0	▲ 140
産業システム・汎用機械	4,100	120	4,100	120	0	0
航空・宇宙・防衛	4,600	360	4,500	360	▲ 100	0
報告セグメント計	15,100	610	14,900	420	▲ 200	▲ 190
その他	700	30	700	20	0	▲ 10
調整額	▲ 600	▲ 60	▲ 600	▲ 60	0	0
合計	15,200	580	15,000	380	▲ 200	▲ 200

前回見通しは、2016年7月29日公表の業績予想数値です。

今回見通しは、2016年10月24日に公表した数値から変更ありません。

## 2. 2016年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(営業利益の増減要因)

(億円)

	売上高の 増減	工事採算 の変動	為替の変動	販管費の 変動	合計
資源・エネルギー・環境	▲ 20	▲ 30	▲ 10	10	▲ 50
社会基盤・海洋		▲ 140			▲ 140
産業システム・汎用機械			▲ 10	10	0
航空・宇宙・防衛		20	▲ 20		0
報告セグメント計	▲ 20	▲ 150	▲ 40	20	▲ 190
その他		▲ 10			▲ 10
調整額					0
合計	▲ 20	▲ 160	▲ 40	20	▲ 200



### 3. 報告セグメント別の概況

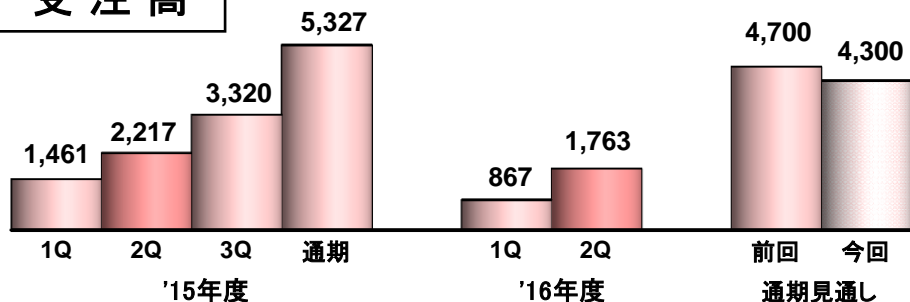
### 3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円/各期の金額は累計)

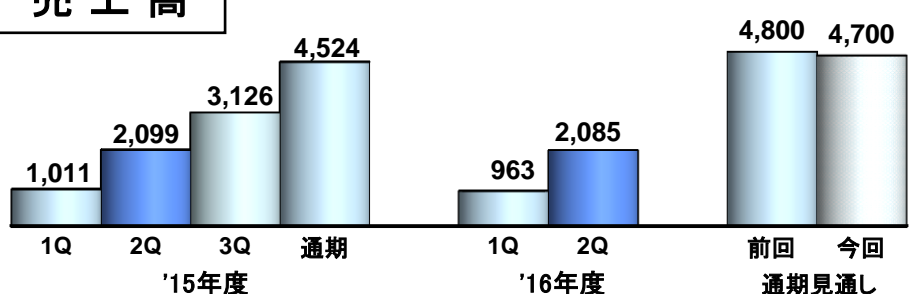
前回: 2016年7月29日公表の業績予想数値

主要事業: ボイラ, 原動機プラント, 陸船用原動機, 船用大型原動機, プロセスプラント, 原子力, 環境対応システム, 医薬プラント

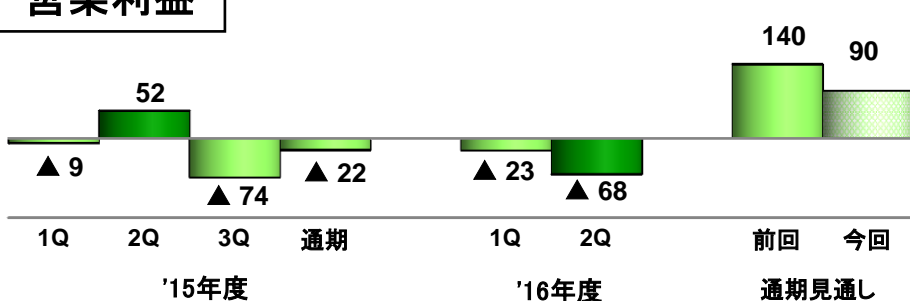
#### 受注高



#### 売上高



#### 営業利益



#### <対前年同期 増減内訳>

##### 【受注高】

前年同期にボイラで大型案件の受注があった反動や、原油安の影響によって陸船用原動機の受注が低迷していることで、減少しました。

##### 【売上高】

ボイラにおいて大型工事の進捗に伴う増収はあったものの、プロセスプラントにおいて前年同期に進捗していた国内及びアジアでのLNG貯蔵設備の大型工事が工程終盤を迎えた影響や、陸船用原動機の販売減少により、減収となりました。

##### 【営業利益】

上記の減収の影響や一部ボイラ工事の採算悪化の影響などにより、減益となりました。

#### <通期見直し 対前回 増減内訳>

受注高・売上高については、為替円高の影響や、プロセスプラントの期ずれ等で減少する見込みです。

営業利益については販管費の削減を図るものの、上述の減収影響に加えボイラ等の採算悪化により減益となる見込みです。

### 3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円)

	受注高		売上高						
	'15年度 通期	'16年度 通期 (見通し)	'15年度			通期	'16年度		通期 (見通し)
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	
ボ イ ラ	1,701	900	182	447	569	808	245	609	1,200
原 動 機 プ ラ ン ト	221	450	43	90	198	318	58	104	250
陸 船 用 原 動 機	811	650	209	376	577	778	133	264	550
プ ロ セ ス プ ラ ン ト	1,071	800	306	634	951	1,231	215	486	1,200
原 子 力	386	400	38	110	147	325	22	69	350

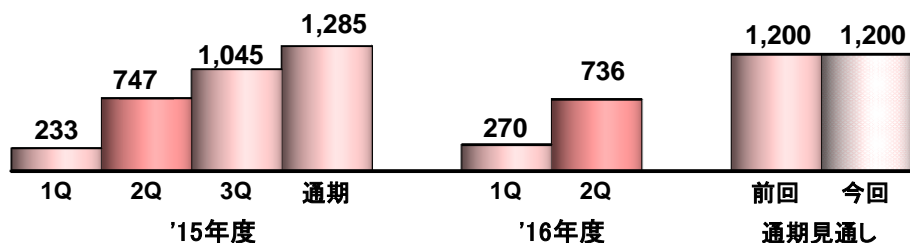
### 3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円/各期の金額は累計)

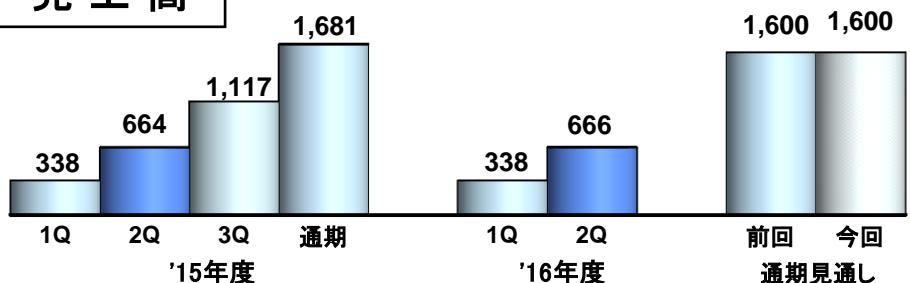
前回: 2016年7月29日公表の業績予想数値

主要事業: 橋梁・水門, シールド掘進機, 交通システム, 都市開発,  
F-LNG(フローティングLNG貯蔵設備, 海洋構造物)

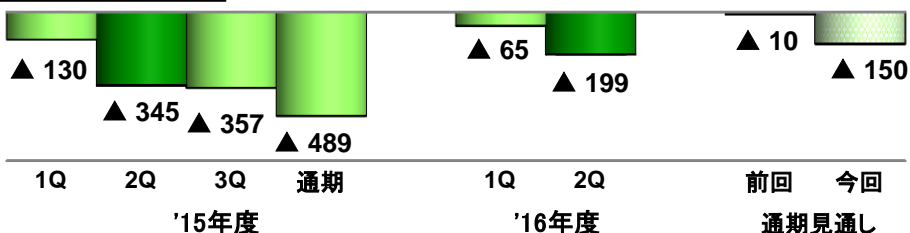
#### 受注高



#### 売上高



#### 営業利益



#### <対前年同期 増減内訳>

##### 【受注高】

橋梁・水門が増加したものの、交通システムやシールド掘進機の減少により、前年同期とほぼ横ばいとなりました。

##### 【売上高】

橋梁・水門において、本年6月30日に開通式が催されたトルコ イズミット湾横断橋建設工事が減収となったものの、F-LNGの工事進捗に伴う増収により、前年同期とほぼ横ばいとなりました。

##### 【営業利益】

橋梁・水門の採算改善や、前年同期にF-LNGで大幅な採算悪化があった影響で赤字幅が縮小していますが、本年10月24日に公表のとおり、当期においてもさらなる採算悪化となりました。

#### <通期見通し 対前回 増減内訳>

営業利益は、橋梁・水門等では採算が好転するものの、F-LNGの採算悪化により、大幅な営業赤字となります。受注高、売上高は変更ありません。

### 3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円)

	受注高		売上高						
	'15年度 通期	'16年度 通期 (見通し)	'15年度			通期	'16年度		
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	通期 (見通し)
橋梁・水門	766	650	175	337	533	760	150	306	600
F-LNG	▲ 155	0	36	68	144	214	80	107	300
都市開発	162	150	51	88	127	176	34	71	150

「都市開発」の豊洲地区関連情報は、P31、P32の＜参考資料＞をご覧ください。

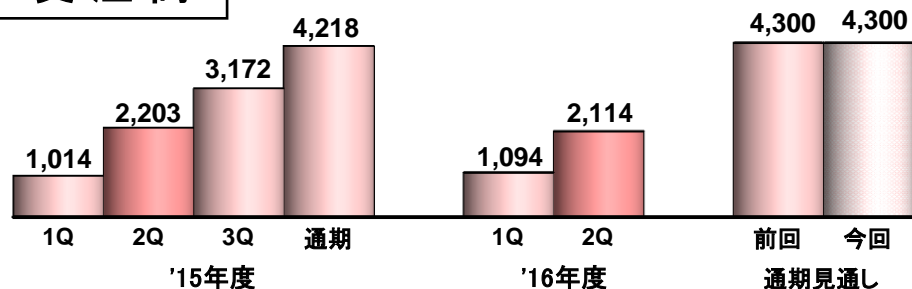
### 3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円/各期の金額は累計)

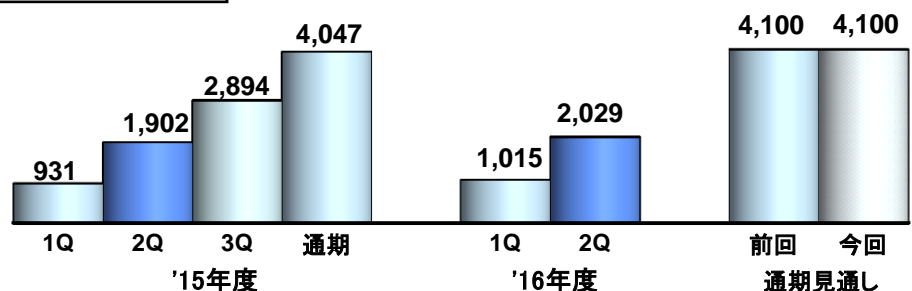
前回: 2016年7月29日公表の業績予想数値

主要事業: 船用機械, 物流・産業システム, 運搬機械, パーキング, 熱・表面処理, 車両過給機, 回転機械, 建機, 農機・小型原動機

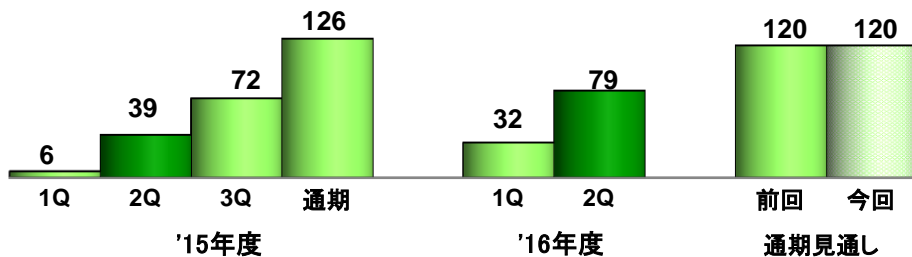
#### 受注高



#### 売上高



#### 営業利益



#### <対前年同期 増減内訳>

##### 【受注高】

車両過給機やパーキングの増加はあったものの、運搬機械及び建機の減少により、前年同期に比べ減少となりました。

##### 【売上高】

物流・産業システムにおける大型工事の進捗や、車両過給機及び回転機械の増収により、前年同期に比べ増収となりました。

#### <車両過給機の販売台数>

(万台)

販売年度	2Q累計	通期
'15年度	275	536
'16年度	293	613

##### 【営業利益】

上記の増収効果や、物流・産業システム、回転機械及びパーキングの採算改善により、前年同期に比べ増益となりました。

#### <通期見直し 対前回 増減内訳>

営業利益は、為替円高の影響はあるものの、販管費の削減を図ることにより、前回の通期見直しを維持する見込みです。

受注高、売上高は変更ありません。

### 3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円)

	受注高		売上高						
	'15年度 通期	'16年度 通期 (見通し)	'15年度			通期	'16年度		
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	通期 (見通し)
運搬機械	358	350	35	98	156	218	54	116	250
パーキング	396	400	87	195	298	426	75	184	400
熱・表面処理	298	330	70	145	231	317	78	156	350
車両過給機	1,620	1,700	440	828	1,218	1,616	474	868	1,700
回転機械	487	500	84	194	295	464	103	217	500

「車両過給機」の詳細は、P30の<参考資料>をご覧ください。

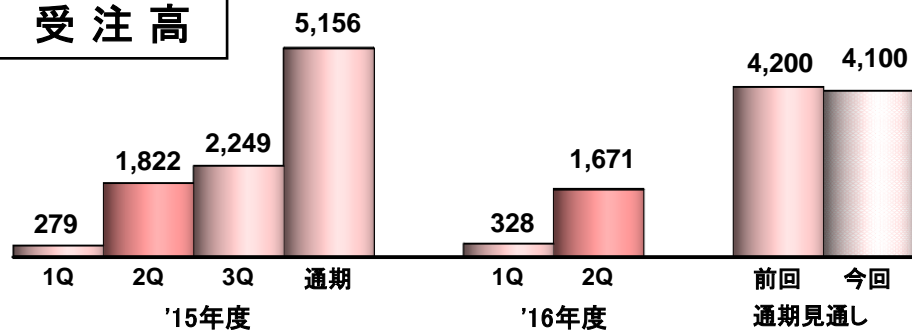
### 3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円/各期の金額は累計)

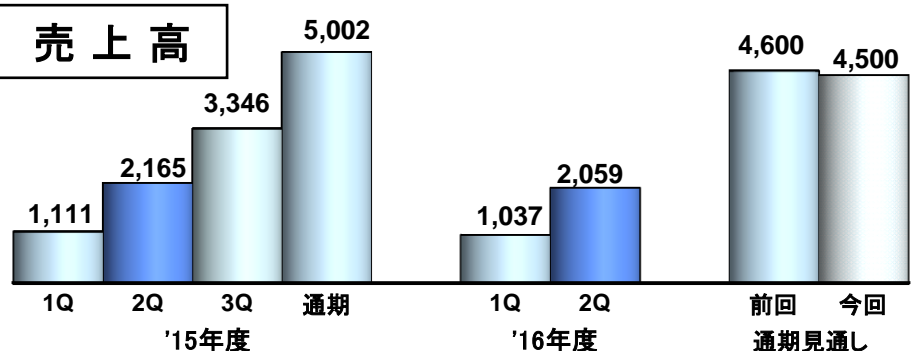
前回: 2016年7月29日公表の業績予想数値

主要事業: 航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム

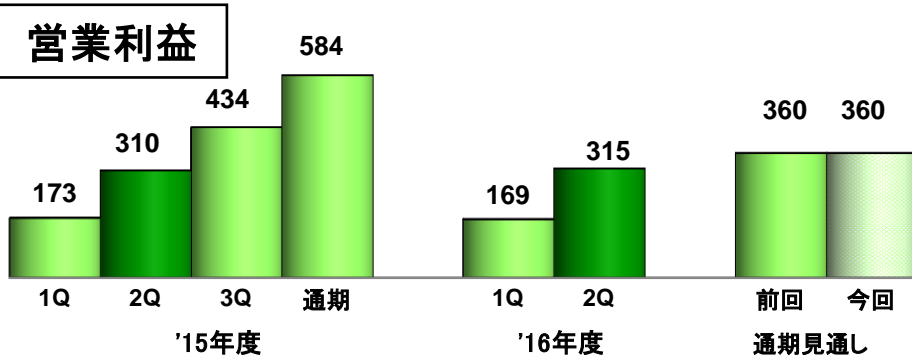
#### 受注高



#### 売上高



#### 営業利益



#### <対前年同期 増減内訳>

##### 【受注高】

民間向け航空エンジンの減少により、前年同期に比べ減少しました。

##### 【売上高】

為替円高の影響などにより民間向け航空エンジンが減少したことや、前年同期に防衛機器システムにおいて艦艇用ガスタービンの引渡しがあったことにより、減収となりました。

<民間向け航空エンジンの販売台数>

(台)

販売年度	2Q累計	通期
'15年度	646	1,260
'16年度	641	1,450

##### 【営業利益】

為替円高の影響があったものの、次世代大型機用航空エンジンGE9Xが量産準備のステージに移行し、研究開発費が減少したことで、前年同期とほぼ横ばいとなりました。

#### <通期見通し 対前回 増減内訳>

受注高・売上高については、為替円高の影響により減少する見込みです。

営業利益は、上述の減収影響はあるものの、民間向け航空エンジンの採算改善でカバーすることにより、見通し数値に変更はありません。



### 3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円)

	受注高		売上高						
	'15年度 通期	'16年度 通期 (見通し)	'15年度			通期	'16年度		
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	通期 (見通し)
民間向け 航空エンジン	2,761	2,800	778	1,490	2,242	2,991	698	1,352	2,900

「民間向け航空エンジン」の詳細は、P29の<参考資料>をご覧ください。

## < 参考資料 >

- ・海外大型案件の進捗状況
- ・当第2四半期のトピックス
- ・航空エンジン
- ・車両過給機
- ・都市開発

## コーブポイント天然ガス液化設備



2016年9月現在



窒素除去塔据付

### <進捗状況>

2016年9月末現在で、設計及び機器の発注はほぼ完了し、現在、架構及び配管工事が進行中。プロジェクト全体の進捗率は73%。

### <主要工程>

2013年4月: 契約締結  
 2014年9月: FERC (米国連邦エネルギー規制委員会)の建設許可承認(仮設工事着工承認)  
 2015年3月: 起工式挙行  
 2016年末: DCS(プラント制御装置)運転開始  
 2017年中頃: メカニカル・コンプリーション  
 2017年10~12月: 運転開始

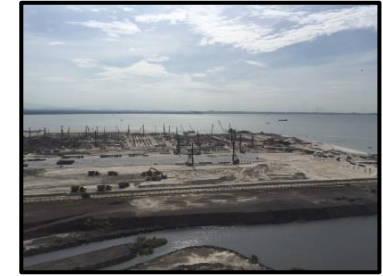
### <プロジェクト概要>

- ・契約内容: コーブポイント天然ガス液化設備のEPC契約
- ・建設地: 米国メリーランド州, ラスビー, チェサピーク・ベイ
- ・担当範囲: 年産約525万トンの液化設備の設計, 建設, 試運転および運転開始

## ジマイーストパワー石炭火力発電所



完成予想図



2016年9月末現在

### <進捗状況>

2016年9月末現在、建設地では埋立作業(他社所掌)が完了し、タービン・ボイラエリアの杭打・基礎工事が進行中。ボイラ部分の進捗は設計:70%, 調達:25%, プロジェクト全体:約20%。

### <主要工程>

2014年 8月: 契約締結	2018年10月: 火入れ(#1)
2017年 1月: 立柱(#1)	2019年 4月: 火入れ(#2)
2017年 7月: 立柱(#2)	2019年 6月: 運転開始(#1)
2018年 4月: 水圧試験(#1)	2019年12月: 運転開始(#2)
2018年11月: 水圧試験(#2)	

### <プロジェクト概要>

- ・契約内容: IPP事業者のJimah East Power社向け石炭焚き発電所のフルターンキー契約
- ・建設地: マレーシア, ネグリスンビラン州ジマ地区
- ・担当範囲: 超々臨界圧石炭火力発電所ボイラ(1000MW×2基)の設計・調達・建設及び試運転

## 相馬第一工場 新加工棟竣工

航空機エンジン部品を生産する相馬第一工場内に建設を進めてきた新加工棟が8月19日に竣工しました。新加工棟は、相馬事業所における第5番目の建屋であり、2016年12月から、エアバス社A320neoに搭載される「PW1100G-JM」エンジン用部品である炭素繊維強化プラスチック(CFRP)製の構造案内翼(SGV)等の生産を担当します。

「PW1100G-JM」は、高いエンジン性能と、民間旅客機の中で、最も需要の高い単通路型機に属するA320neoに搭載されることから、多くの需要が見込まれています。従来の生産ラインに加え、2016年12月から第5加工棟を稼働させることで、今後予定されている増産に着実に対応していきます。



相馬第一工場 第5加工棟

ターボ回転機



## ターボ冷凍機向け回転機の共同開発

回転機械事業においては、超電導電力機器を $-200^{\circ}\text{C}$ 以下で冷却可能な大容量ターボ・ブレイトン冷凍機向けターボ回転機を太陽日酸株式会社と共同で開発しました。

IHIグループには、これまでCERN(欧州合同原子核研究機関)向けに極低温圧縮機を納めた他、多数の極低温圧縮機の納入実績があります。引き続き、冷媒や諸条件に合わせた最適設計ノウハウなど、最先端の極低温回転機械技術をもとに、超電導技術の更なる発展に貢献していきます。

## (1) 民間向け航空エンジン: 連結売上高推移

(億円)

	実績								見通し		
	'11	'12	'13	'14	'15年度			通期	'16年度		
					1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	通期
売上高	1,436	1,698	2,260	2,670	778	1,490	2,242	2,991	698	1,352	2,900

## (2) 民間向け航空エンジン: 累計販売台数

	実績(累計)												主要搭載機
	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16/2Q	
V2500	2,850	3,154	3,474	3,828	4,168	4,551	4,980	5,468	5,969	6,469	6,896	7,076	エアバス A319/320/321
GE90	464	579	742	896	1,071	1,223	1,399	1,589	1,806	2,039	2,257	2,368	ボーイング B777
CF34	1,027	1,374	1,802	2,274	2,604	2,919	3,242	3,548	3,820	4,156	4,471	4,654	リージョナルジェット (70~110席級)
GEEx							118	259	468	751	1,035	1,160	ボーイング B787/B747-8
PW1100G											16	58	エアバス A320Neo
合計	4,341	5,107	6,018	6,998	7,843	8,693	9,739	10,864	12,063	13,415	14,675	15,316	

(注) 販売台数は、機体メーカーに引き渡した台数であり、工場出荷台数とは異なります。

## <地域別連結売上高推移>

(億円)

	実績										見通し
	'11	'12	'13	'14	'15年度				'16年度		
					1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	
日 本	331	339	353	375	84	172	255	346	85	180	350
ア ジ ア	169	248	298	275	78	129	166	216	66	96	140
中 国	143	181	234	243	71	118	179	249	118	205	470
北 米	11	13	16	18	5	12	18	24	13	19	30
中 南 米	0	0	0	7	8	16	24	34	29	43	70
欧 州	437	432	602	756	192	378	573	743	160	322	640
そ の 他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	1,094	1,216	1,507	1,677	440	828	1,218	1,616	474	868	1,700

## (1) 豊洲地区 賃貸収入の実績推移

(億円)

	実績										見通し	
	'11	'12	'13	'14	'15年度				'16年度			
					1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計		通期
賃貸収入	95	92	91	93	25	50	76	101	23	46	93	

## (2) 豊洲地区 賃貸収入, 賃貸費用実績(当期)

(億円)

	賃貸収入	賃貸費用		差額
		減価償却費	その他	
'16年度2Q	46	17	11	17



# 豊洲1~3丁目地区 開発マップ

**豊洲IHビル**  
地上25F, 高さ: 約125m, 延床面積: 97,617㎡  
2006年2月竣工



**幼稚園, 保育園, カフェ, 結婚式場**  
敷地面積: 19,492㎡  
2010年3月~2011年2月竣工



**アーバンドック ららぽーと豊洲ANNEX (三井不動産)**  
地上5F, 高さ約25m, 延床面積: 24,721㎡  
2006年10月開業

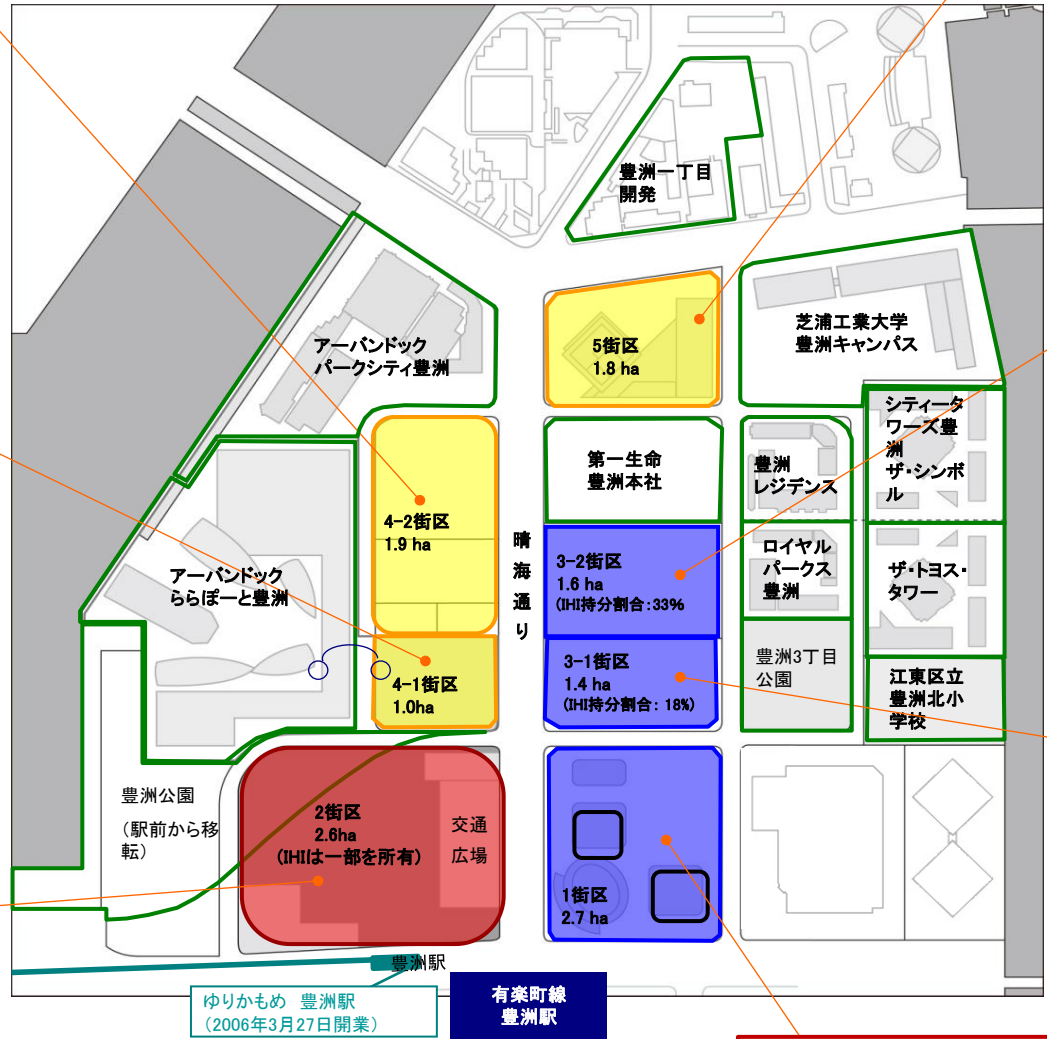


**複合ビルAC棟 (IHI, 三井不動産)**  
地上36F, 高さ178m, 延床面積約185,000㎡  
2020年4月竣工予定



シビックセンター棟: 2015年9月開業  
消防署棟: 2016年6月竣工

IHI所有地	約8ha
--------	------



**豊洲フォレシア (IHI, 三菱地所(SPC))**  
地上16F, 高さ: 約75m, 延床面積: 101,503㎡  
2014年7月竣工



**豊洲フロント (IHI, 三菱地所(SPC), 三菱UFJ信託銀行)**  
地上15F, 高さ: 約75m, 延床面積: 106,861㎡  
2010年8月竣工



**豊洲センタービル**  
地上37F, 高さ: 約165m, 延床面積: 100,069㎡  
1992年10月竣工

**豊洲センタービルアネックス**  
地上33F, 高さ: 約150m, 延床面積: 105,448㎡  
2006年8月竣工

- 建物買貸
- 土地買貸
- 第一種市街地再開発事業 ※1
- 売却・寄付・交換済

※1 都市再開発法で定める手法の一つ



# IHI

Realize your dreams

## ご注意

業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。